

現場訪問

●中日本ハイウェイ・パトロール東京(株)

高速道路を安全に利用して  
もらうために実践的な訓練を実施

中日本ハイウェイ・パトロール東京(株)は、東名高速道路の東京IC(三ヶ日IC)間、中央自動車道の高井戸IC(伊北IC)間など、12路線の高速道路等における交通管理、道路管制、法令違反車両取締及び不正通行対策業務を行っている。

例えば、高速道路上で交通事故や車両故障といった異常事態が発生した場合、安全で迅速に事態処理を行うのも同社の重要な業務の1つ。そのため、「基本動作の励行」「迅速丁寧な処置」「適時適切な無線通信」「隊員相互の連携」「お客様に対する配慮」を重点として日常的に訓練を実施。また、年に1度、知識技能のさらなる向上を図ることを目的に高速道路安全訓練会を開催している。

今年度の高速道路安全訓練会は、昨年11月18日(20日の3日間、交通安全教育センターレインボー浜名湖で開催され、交通事故処理・故障車処理・落下



車両火災処理の訓練

車線規制を行い故障車処理を行う訓練の様子

また、大石さんは、「私たちは、交通事故などの異常事態が発生した現場にすばやく駆けつけてお客様に安全を確保し、的確・迅速に対応して現場を元の安全な状態に戻し、お客様に安全に通行していただくように日々取り組んでいます。負傷者対応や事故・故障車両の処理、交通規制といった作業を他の車両が通行する中で行うので、二次被害や私たち作業員の危険も多く、気の抜けない業務です。実践的な訓練を行い、それをいろいろな角度から検証し、さらなる改善に努めることがとても重要です」と実践的な訓練の重要性を語った。



中日本ハイウェイ・パトロール東京(株)東名富士基地班長の  
大石栄治さん

物処理・車両火災処理などの課題を設けた実践訓練や運転技能研修、夜間視認性検証、安全訓練検討会議が行われた。



通行止めの訓練

TOPICS



参加者同士の話し合いで交通安全力を高める



「交通脳トレ」に取り組む参加者

活「危険予知トレーニング」「ヒヤリ体験を生かす」「自分の運転を振り返る」の4科目、それぞれ3レベル、合計12項目ある。受講者の必要に応じて1項目を選び、それと「交通脳トレ」を組み合わせてトレーニングを行う。リーダーが進行役を務め参加者同士で話し合うことで、交通安全力を高める。

13日の研修には、21名が参加。受講者を4グループに分けてトレーニングを行った。最初は、参加者に「いきいき運転講座」の進行方法を覚えていただく目的で埼玉普及ブロックのインストラクター4名が各グループの進行役を担当。自己紹介をした後、「交通脳トレ」のシートを一人ずつ配布し時間を計りながら問題にチャレンジしてもらう。続いて、「自分の運転を振り返る」から、1項目。参加者にワークシートを配り、それにそって、映像教材を交えながら話し合いを行った。一通りのトレーニングを終え、今度は、参加者からリーダーを選び、進行役

「いきいき運転講座」のキャリアラムは、「いきいき運転・いきいき生活」の4つのセミナーが午前・午後に分かれ、企業の安全運転活動の担当者などが多数参加し、自社の事故削減に役立つ指導法を学んだ。

「バック・縦列駐車」では、実際に参加者が縦列駐車、車庫入れを体験しながら、死角や車両の動きを先読みした操作と安全確認のポイントを確認。自分が縦列駐車、車庫入れを行う際の技術向上と、社内で指導する際のアドバイス方法について学んだ。

「エコドライブのポイント指導」では、最初に教室で同乗指導の観察着眼点やアドバイスの方法をインストラクターが解説。その後、実際に2人1組でツインリンクもてぎ構内をクルマで走行し、道路状況に合わせた同乗指導の訓練を行った。

「エコドライブ」のポイントを「早くアクセルを戻して減速」など、エコドライブのコツをインストラクターが説明。その後、参加者は「エコドライブのポイント指導」では、最初に教室で同乗指導の観察着眼点やアドバイスの方法をインストラクターが解説。その後、実際に2人1組でツインリンクもてぎ構内をクルマで走行し、道路状況に合わせた同乗指導の訓練を行った。

「自分の運転を振り返る」の1項目にある映像を使ったトレーニングを体験してもらう。リーダー役に任命された参加者は、リーダー用教材を読みながら、「交通脳トレ」と「自分の運転を振り返る」の1項目を進行する。インストラクターは、「批判的な意見はせず、皆さんから自由に意見を出してもらいましょう」と、進行についてアドバイスをした。

研修に参加した小野寺孝喜さんは、「みんなで意見を出し合い進んでいくので、参加して得ることが多いと思います。事前に台本を読めば、リーダー役をスムーズに務められそうです。自分たちの組織に戻って仲間と実践してみたいと思います」と感想を語った。



「運転適正結果に基づく指導ポイント-交通事故抑止-」セミナーの様相

「同乗指導のポイント指導」では、最初に教室で同乗指導の観察着眼点やアドバイスの方法をインストラクターが解説。その後、実際に2人1組でツインリンクもてぎ構内をクルマで走行し、道路状況に合わせた同乗指導の訓練を行った。

「同乗指導のポイント指導」では、最初に教室で同乗指導の観察着眼点やアドバイスの方法をインストラクターが解説。その後、実際に2人1組でツインリンクもてぎ構内をクルマで走行し、道路状況に合わせた同乗指導の訓練を行った。

「同乗指導のポイント指導」では、最初に教室で同乗指導の観察着眼点やアドバイスの方法をインストラクターが解説。その後、実際に2人1組でツインリンクもてぎ構内をクルマで走行し、道路状況に合わせた同乗指導の訓練を行った。

「同乗指導のポイント指導」では、最初に教室で同乗指導の観察着眼点やアドバイスの方法をインストラクターが解説。その後、実際に2人1組でツインリンクもてぎ構内をクルマで走行し、道路状況に合わせた同乗指導の訓練を行った。

「同乗指導のポイント指導」では、最初に教室で同乗指導の観察着眼点やアドバイスの方法をインストラクターが解説。その後、実際に2人1組でツインリンクもてぎ構内をクルマで走行し、道路状況に合わせた同乗指導の訓練を行った。

1 交通安全教育を考える(人・企業・信頼)

「社内でもできる安全運転指導セミナー」inもてぎ

「社内でもできる安全運転指導セミナー」inもてぎ

「社内でもできる安全運転指導セミナー」inもてぎ

「社内でもできる安全運転指導セミナー」inもてぎ

「社内でもできる安全運転指導セミナー」inもてぎ

「社内でもできる安全運転指導セミナー」inもてぎ

NEWS REVIEW

1 ●2009年 Honda 安全運転普及本部 年末ご挨拶会  
企業の社会的責任としての安全運転普及活動の展開



挨拶を行う伊東孝紳・本田技研工業(株)社長

昨年12月4日、Honda 青山ビルにて「2009年 Honda 安全運転普及本部年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約300名が参加した。報告会では、伊東孝紳・本田技研工業(株)社長が「環境と安全に対しては商品やサービスを通じて、「低炭素化社会」と「安全・快適な交通社会」の実現に向け、これまで以上に取り組みを進めてまいります。環境については、ハイブリッド車の普及やガソリンエンジン車の効率アップを通して、CO2の低減につなげてまいります。安全については、より安全で質の高い製品

づくりはもとより、お客様に対して正しい乗り方、使い方といったソフトウェアも提供することが企業の社会的責任であるという考え方に立ち、今後も一層、安全運転普及活動に取り組んでいきます。昨年、高齢者事故や自転車事故の抑止が交通社会の重要課題であることから、2009年は地域で安全運転普及活動を専任で行う組織を設置し、より地域の実情に合わせた活動を展開するための体制を強化しました」と挨拶。

続いて、千葉英雄・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長が、2009年の安全運転普及活動の報告と今後の取組みについて、映像を交えながら紹介した。さらに、来賓を代表して室城信之・警察庁交通局交通企画課長が挨拶。「Honda安全運転普及本部が先進的な安全運転支援機器や教育プログラムの開発、地域に根ざした活動の展開など、ハード・ソフト両面から独創的な交通安全活動を実践していることは、警察としてもたいへん強く感じています」と述べた。報告会の後は、懇談会が開かれ、交通関係者の交流の場となった。

2 ●ハイブリッド静音性体験会  
ハイブリッドの静音性を理解した安全運転が必要

1月20日、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎにて「栃木県視覚障害福祉協会ハイブリッド静音性体験会」が行われ、視覚障がいのある会員ら29人が、車両による音の違いを体験した(主催：(社)栃木県視覚障害福祉協会、協力：本田技研工業(株)安全運転普及本部、(株)モビリティランドツインリンクもてぎ)。



クルマの音に気づいたら手をあげて知らせる参加者

体験会では、一般車と、Honda インサイトやシビックハイブリッドなどのハイブリッド車の走行音を比較。中でも「一時停止後の再発進」、「7km/h程度の低速走行」、「駐車場などでのバック走行」の体験では、参加者から「音に気づいた時には目の前だった」「静かすぎて動きが予測できない」といった声が聞かれた。

同協会副会長の加藤範義さんは、「私たちは、外出時には、感覚を研ぎ澄ませてクルマの音を聞き安全を心がけています。ドライバーの皆さんも私たち視覚障がい者は、クルマの存在に気づかない場合があるということを理解していただき、注意して運転してほしい」と、ドライバー側へ理解を求めた。ハイブリッド車や電気自動車は音がなくて危険という意見が、自動車ユーザーや視覚障がい者団体等から寄せられており、国土交通省では有識者等による「ハイブリッド車等の静音性に関する対策検討委員会」を設置し、その対策のあり方について検討している。